

あんどうただお ◎建築家。1941年大阪府生まれ。独学で建築を学び、69年安藤忠雄建築研究所を設立。主な作品に「住吉の小屋」「光の教会」「国立国会図書館国際子ども図書館」「フォートワース現代美術館」(アメリカ)、「アルマーニ/テアトロ」(イタリア)、「表参道ヒルズ」「地中美術館」など多数。イェール大学、コロンビア大学、ハーバード大学の客員教授を務め、97年から東京大学教授、2003年から同名教授。文化勲章ほか受賞歴多数。主な著書に『建築に夢をみた』(日本放送出版協会)、『連戦連敗』(東京大学出版会)『建築家 安藤忠雄』(新潮社)などがある。

求人広告に関するお問い合わせ先 広告掲載4課 求人・人材担当 ☎03-5540-7773(受付時間:9:30AM~5:30PM(土日曜・祭休日除く))
朝日求人ナビ http://www.asahi.com/job

朝日求

仕事力

「君の原動力は見つかったか？」
安藤忠雄が語る仕事

仕事は無ければつくる

「任せてみるか」と
思われるまで粘れ

随分前から、建築家になるためには大学や大学院で学んでいることが当たり前とされています。しかし、私は全くの独学で建築の仕事に取り組んできました。有名な建築家ル・コルビュジエもスイスの山間で生まれ、専門の教育を受けずにパリへ出て、独学で建築の仕事を始めました。その後の彼が残した建築のすばらしさは多くの人の知るところですが、私は、いくら仕事を断られても諦めなかつた若き日のコルビュジエの生き方に、憧れ以上の強い影響を受け、自分の糧にしてみました。

独学という自由なイメージがあるかもしれませんが、一人前になるための学びを自分自身で組み立てていくのは容易なことではありません。実にさまざまな本を読み、一年近くをかけ世界中の重要な建築をこの目で見て歩き、自分で自分を教育するしかなかったのです。

働きかけ、種をまく

15年前に京都の大山崎の地に、アサヒビル大山崎山荘美術館新館をつくりました。千利休の待庵という茶室がある辺りです。当時のアサヒビル樋口廣太郎社長が「思い切つてやれ」と言うので、私はアサヒビルの敷地から少しはみ出し、京都府の敷地にまで設計を広げました。当然、京都府は境界を越えていると言ってきます。

【全面広告】

朝日求人 24面~25面 企画



大阪で事務所を構えたのは28歳の時ですが、もちろん仕事が無い込んでくるわけもない。だから時間に任せて街の中を歩き、空き地を見つけては勝手に設計をして土地の持ち主に提案し、「何を考えているんだ」と怒られる日々でした。それでも朝から晩まで建築のことばかり考え、仕事にならない架空の設計を続けたのですが、その経験が大きな財産になり、やがて仕事につながっていきました。

自分がやりたい仕事を誰かが用意してくれることなど、まずありません。与えられた仕事があれば懸命にやり遂げることももちろんですが、

言うから自由によったままで、解決してきてください」とけたを預けました。しかし、その土地を貸して欲しいと頼んでも認められず、はみ出した設計部分はそのまま立ち消えになりました。

ところが面白いもので、10年たてば社会も変わるんです。ついに2年前、京都府のほうから「アサヒビルさんに、あのはみ出した土地を借りて欲しい」と申し出があって、今1期目とほぼ同じ規模で2期目の美術館を設計しています。こんなことはめったにないとは思いますが、無謀な挑戦も時には逆転で成功することがあるのです。

種はまいてみなければ、ただ一つの芽も出ない。だから自分で戦地を広げなくてはなりません。現代の人は煩わしいことを嫌いますが、夢は煩わしいことの向こうにあります。全部は成功しないけれど、闘って乗り越えていくことが人生の醍醐味です。

(談)